



伊勢物語古意

三

W 皇
913.32
K a
6-3

62219





い勢物... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻...

社... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻...

い勢物... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻...

おののふり... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻...

あふれ... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻...

おののふり... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻...

あふれ... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻...

あふれ... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻...

あふれ... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻...

あふれ... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻...

あふれ... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻...

あふれ... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻...

あふれ... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻...

あふれ... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻...

あふれ... 伊勢物語の巻... 伊勢物語の巻...



卷三

一

あゝ後ハ...
細き人...

かゝ

さありけらたゆみんあつてかか...
あゝ後ハ...
あゝ後ハ...
あゝ後ハ...

かぢる人...
あゝ後ハ...

かぢる人...
あゝ後ハ...

あゝ後ハ...
あゝ後ハ...

あゝ後ハ...
あゝ後ハ...
あゝ後ハ...
あゝ後ハ...

うしろのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト

か

なつねをその人におぼしめしむるべしし
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト

此法 イサナナナナナ ニヤニヤ
護つてゐることを
後日本後紀云々

ナつと云ふは海和院 西院ハ田舎乃山西大宮の東と
り松ハ橋の太岳北岸
○まゆの親王とて云々 藤原の皇女也ハ橋女とて云々のこと
和十彦五月廿五日云々

なつねをその人におぼしめしむるべしし
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト

あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト

嗚呼ト長息スルを云ひ
まにまにと云ふと云ふ
まにまにと云ふと云ふ

轎車 ウツナ を移して将 カ けてあつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト
あつちのりあるハ都ト

向ふ支車立利其者源至与云あまのきつれまごのりとなり

たゆりれ車を女おんな福ふくれんも思ひくもかくまらぬあひ

づりかの伊いしむき給ふりてななへり入いりけしむ

々々ハ女車とてさしあつてあまのきつれまごのりとなり

して女人のきつれまごのり

車なりと人このほしむれなけけたたややおお思しひひてて滅めちちんんと

すて男のよちむ

車れ内ふふりしやあつてさしあつてあまのきつれまごのり

いはるき給ふりてあまのきつれまごのり

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

かゝりてしるすべし
かゝりてしるすべし
かゝりてしるすべし

にけして人いづろはつとつていかにいかに
のさむしうさむしうさむしうさむしうさむしう
あつて人のさむしうさむしうさむしうさむしう
まじりてしるすべし
まじりてしるすべし
まじりてしるすべし

古事と追討とあるは
古今に追討とあるは
古今に追討とあるは
古今に追討とあるは

母あつて思ひぬさむしうさむしうさむしう
かゝりてしるすべし
かゝりてしるすべし
かゝりてしるすべし

かゝりてしるすべし
かゝりてしるすべし
かゝりてしるすべし
かゝりてしるすべし
かゝりてしるすべし
かゝりてしるすべし
かゝりてしるすべし
かゝりてしるすべし

三 八

血のやうな色に
 涙のやうな味に
 心の中に
 静かに
 思ひを
 遺す
 人は
 哀れに
 思はる

~~~~~

女がこゝろを  
 思ひの  
 ほどに  
 思ふ  
 ほどに  
 思ふ  
 ほどに  
 思ふ  
 ほどに  
 思ふ  
 ほどに  
 思ふ  
 ほどに  
 思ふ

女がこゝろを  
 思ひの  
 ほどに  
 思ふ  
 ほどに  
 思ふ  
 ほどに  
 思ふ  
 ほどに  
 思ふ  
 ほどに  
 思ふ  
 ほどに  
 思ふ

~~~~~

ほへい...の細を
あてゆけり...
まじりの細も...
まじりの細も...
まじりの細も...
まじりの細も...
まじりの細も...
まじりの細も...
まじりの細も...
まじりの細も...

とて...
厭可者誰別之語 云々
女出而後迹亦付可 一本述を返す
何一所至而...
一本述を返す

かゝあり一なるは出而後者乃四字...
て侍...
あつれし細を...
あつれし細を...
あつれし細を...
あつれし細を...
あつれし細を...
あつれし細を...
あつれし細を...
あつれし細を...
あつれし細を...

まじりて...
まじりて...
まじりて...
まじりて...
まじりて...
まじりて...
まじりて...
まじりて...
まじりて...
まじりて...

世傳の...
の...
の...
の...
の...
の...
の...
の...
の...
の...

あつれし細を...
あつれし細を...
あつれし細を...
あつれし細を...
あつれし細を...
あつれし細を...
あつれし細を...
あつれし細を...
あつれし細を...
あつれし細を...

すけるおもひをなへしけりけるのせれ箱詰めならん
や時をちよひ乃はねりあきらめり

けなふこゝろはかた
もねをせなすこ
くはなえゆめ
たふてりてり
まじり

は昔れさへよりかたのつらきほどに
まよあつとさうりつとつらきほど
事なれはよひひびきしこしつらきほど
き後し。時ハかたのつらきほど
ゆいさへもさうりつとつらきほど
けりんがけり

むろし女もくから二人ありけりつらきほど
きちちりハかたのつらきほど
まよは女もさうりつとつらきほど
けりてさうりハかたのつらきほど
なつてさうりつとつらきほど

あつてさうりつとつらきほど

きあけはさつらきほど
あつてさうりつとつらきほど
あつてさうりつとつらきほど
あつてさうりつとつらきほど
あつてさうりつとつらきほど
あつてさうりつとつらきほど
あつてさうりつとつらきほど
あつてさうりつとつらきほど
あつてさうりつとつらきほど
あつてさうりつとつらきほど

三 十一

昔は人の心もまじく
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は

あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は

あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は

あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は
あつたが今は

よみこし神代文
きよあつちを理の
ついでにわたり
ついでにわたり
ついでにわたり

乃らひ細よりしりよれにあられはるれしよりたのり
うの勢もききよもせよよる細あかしてこもまきり
をちれ二首ふわしてはししきききききききききき
づあまききききききききききききききききき
あしききききききききききききききききき

日本紀の善友をうりしはるれはるれはるれはるれはるれ

かきよききききききききききききききききき
ききききききききききききききききききききき

あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより
あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより
あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより
あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより

月日してあきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより

事
ききききききききききききききききき

あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより
あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより
あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより
あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより

乃人あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより
あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより
あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより
あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより

あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより
あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより
あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより
あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより

あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより
あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより
あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより
あきよはらけよりあきよはらけよりあきよはらけより

とらり

ちまたに今あるついでにりあつたの細き日の様さ一人は
男乃久とせんも嫌ひなし遣有る一ひきでうねり事なり
ていねきとりともよめとてとよき男とていひふし
ふまをささやりにしりていふもくはの物ありてやゆ
依て思つた世の中てつより昔の男にやうきやうして
ありて今の男のついでをたうり

はの人よとて考へて
又うつさるる考へ
まじこの世にあり
ていねきとりとも
よめとてとよき男
とていひふし
ふまをささやりに
しりていふもくは
の物ありてやゆ
依て思つた世の中
てつより昔の男に
やうきやうして

昔男家華多友をけおけりおき語を往けり陰精少
原而止るふふ浅穂の右衛門目白之陸奥多事と
おけり終るに痛会候久信
世の人の心波同誌者可い物多社を礼
とていひふし
ふまをささやりに
しりていふもくは
の物ありてやゆ
依て思つた世の中
てつより昔の男に
やうきやうして
因縁能は思吟ふ心と世無志面終る五

かくす時ハ終るの
むかし男終るころの
とていひふし
ふまをささやりに
しりていふもくは
の物ありてやゆ
依て思つた世の中
てつより昔の男に
やうきやうして

人よとて考へて
又うつさるる考へ
まじこの世にあり
ていねきとりとも
よめとてとよき男
とていひふし
ふまをささやりに
しりていふもくは
の物ありてやゆ
依て思つた世の中
てつより昔の男に
やうきやうして

この世に今あるついでにりあつたの細き日の様さ一人は
男乃久とせんも嫌ひなし遣有る一ひきでうねり事なり
ていねきとりともよめとてとよき男とていひふし
ふまをささやりにしりていふもくはの物ありてやゆ
依て思つた世の中てつより昔の男にやうきやうして
ありて今の男のついでをたうり

古史記仲敷天皇の條ニ
國乃天如仇以て被せ
め天世能二はかの國造
を召て御中を頒せし
御大御とをなされし
公の御名ありて
ちまたに今あるついでにりあつたの細き日の様さ一人は

裏の字古本ニテ

初より此の書は昔に人れ出たるものなれば
 其れも昔に書きて思ふて。〇此れは日本紀に納めし
 べきに云々
今かかるといふは古本に云々

初より此の書は昔に人れ出たるものなれば
 其れも昔に書きて思ふて。〇此れは日本紀に納めし
 べきに云々
今かかるといふは古本に云々

〔後〕
 〇此れは日本紀に納めし
 べきに云々
今かかるといふは古本に云々

男ハ
 〇此れは日本紀に納めし
 べきに云々
今かかるといふは古本に云々

三

三三

〇をみゆるおつりしと云
はけのをりてしるはけは
ふりてしるはけは

いづの位は感じしむるまでしけしよまき勢多かすすまよし
さくば昔の位は感じしむるまでしけしよまき勢多かすすまよし
うづの位は感じしむるまでしけしよまき勢多かすすまよし
妹のあてを君ををしるまよし

勢多かすすまよし
いづの位は感じしむるまでしけしよまき勢多かすすまよし
さくば昔の位は感じしむるまでしけしよまき勢多かすすまよし

さてゆりかたは人れごまよしのさくば
いづの位は感じしむるまでしけしよまき勢多かすすまよし
さくば昔の位は感じしむるまでしけしよまき勢多かすすまよし

説苑云晋靈公造九層臺
晉求見云云臣能累
十二博某茶定志意以
某子一罪下加九雞子
其上云云

ちとち懐くまはれ子十つ十は
あまんと友別のものさかしくして用ねり卵を
百もかたはつるもの茶づくは極つとちまらむしうは
わがのあまのまきつるもの茶づくは極つとちまらむしうは

みよ

ゆくゆくは花をとりてまきまきしてゆく

あまのこゝろを
かきまわす
まはりに
さかんまり
ついでに
けいさく

あまのこゝろを
かきまわす

けいさくしてまきまきしてゆく
三首
さかんまり
ついでに
けいさく
あまのこゝろを
かきまわす

あまのこゝろを
かきまわす
まはりに
さかんまり
ついでに
けいさく

化

あまのこゝろを
かきまわす
まはりに
さかんまり
ついでに
けいさく
あまのこゝろを
かきまわす

あまのこゝろを
かきまわす
まはりに
さかんまり
ついでに
けいさく
あまのこゝろを
かきまわす

昔をよめる人のあまのこゝろ

ありはるかに〜人のこゝろを

一度に〜し 秘して世に秘する時
世に秘する時
秘して世に秘する時
秘して世に秘する時
秘して世に秘する時
秘して世に秘する時
秘して世に秘する時
秘して世に秘する時

今更しは海をさるるに思はれし御りふらふもありはて

今更しは海をさるるに思はれし御りふらふもありはて

今更しは海をさるるに思はれし御りふらふもありはて

今更しは海をさるるに思はれし御りふらふもありはて

今更しは海をさるるに思はれし御りふらふもありはて

今更しは海をさるるに思はれし御りふらふもありはて

今更しは海をさるるに思はれし御りふらふもありはて

今更しは海をさるるに思はれし御りふらふもありはて

今更しは海をさるるに思はれし御りふらふもありはて

今更しは海をさるるに思はれし御りふらふもありはて

今更しは海をさるるに思はれし御りふらふもありはて

今更しは海をさるるに思はれし御りふらふもありはて

此の事今更しは海をさるるに思はれし御りふらふもありはて

あし男きこり人のむらり糞を尾をたこむりたり人

あし男きこり人のむらり糞を尾をたこむりたり人

あし男きこり人のむらり糞を尾をたこむりたり人

あし男きこり人のむらり糞を尾をたこむりたり人

あし男きこり人のむらり糞を尾をたこむりたり人

あし男きこり人のむらり糞を尾をたこむりたり人

あし男きこり人のむらり糞を尾をたこむりたり人

あし男きこり人のむらり糞を尾をたこむりたり人

あし男きこり人のむらり糞を尾をたこむりたり人

あし男きこり人のむらり糞を尾をたこむりたり人

あし男きこり人のむらり糞を尾をたこむりたり人

しほちちこころんちかあま
おとのハのうきあし記あひ
しつしつし

せきつたりしつらつちかあまなまひつちかあまのしつらつちかあま
けきせつてきのはしばかくてわりうとゆくあり。おかしやあしう
お知^{チレ}發^{ケル}達^{ツク}能^クえのあま可^レ重^ク可^レ信^ク若^{カニ}半^{カヌ}葉^ヲあま^ヲ人^ヲの婦^{ナリ}
お知^{チレ}結^ス又^ニ結^スはしあまのしつらつちかあまのしつらつちかあま
よめてけきせつるあまちうん

あしおつしつらつちかあまのしつらつちかあまのしつらつちかあま
りやうのあまをけきせつちかあまのしつらつちかあまのしつらつちかあま

けきせつてきのはしばかくてわりうとゆくあり。おかしやあしう
お知^{チレ}發^{ケル}達^{ツク}能^クえのあま可^レ重^ク可^レ信^ク若^{カニ}半^{カヌ}葉^ヲあま^ヲ人^ヲの婦^{ナリ}
お知^{チレ}結^ス又^ニ結^スはしあまのしつらつちかあまのしつらつちかあま
よめてけきせつるあまちうん

けきせつてきのはしばかくてわりうとゆくあり。おかしやあしう
お知^{チレ}發^{ケル}達^{ツク}能^クえのあま可^レ重^ク可^レ信^ク若^{カニ}半^{カヌ}葉^ヲあま^ヲ人^ヲの婦^{ナリ}
お知^{チレ}結^ス又^ニ結^スはしあまのしつらつちかあまのしつらつちかあま
よめてけきせつるあまちうん

ねんねん人おあまのしつらつちかあまのしつらつちかあまのしつらつちかあま
けきせつてきのはしばかくてわりうとゆくあり。おかしやあしう
お知^{チレ}發^{ケル}達^{ツク}能^クえのあま可^レ重^ク可^レ信^ク若^{カニ}半^{カヌ}葉^ヲあま^ヲ人^ヲの婦^{ナリ}
お知^{チレ}結^ス又^ニ結^スはしあまのしつらつちかあまのしつらつちかあま
よめてけきせつるあまちうん

ねんねん人おあまのしつらつちかあまのしつらつちかあまのしつらつちかあま
けきせつてきのはしばかくてわりうとゆくあり。おかしやあしう
お知^{チレ}發^{ケル}達^{ツク}能^クえのあま可^レ重^ク可^レ信^ク若^{カニ}半^{カヌ}葉^ヲあま^ヲ人^ヲの婦^{ナリ}
お知^{チレ}結^ス又^ニ結^スはしあまのしつらつちかあまのしつらつちかあま
よめてけきせつるあまちうん

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 15 lines of vertical writing.

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 10 lines of vertical writing at the top of the page.

Main body of handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 15 lines of vertical writing.

